

きらめき

vol 43

2025.7.10

地域とともに、笑顔で育んだ20年



発行／社会福祉法人 北星会 編集／広報誌編集委員会

〒626-0033 京都府宮津市字宮村1277 TEL：0772-22-8233 FAX：0772-22-8477

ホームページ：https://hokuseikai.or.jp Eメール：info@hokuseikai.or.jp



令和7年5月1日、天橋の郷は開設20周年を迎えることができました。この間、地域の方々に支えていただき、一年一年活動範囲を広げながら地域に根差した施設となれるよう取り組んできました。

20周年を迎えられた感謝の気持ちを地域の皆様に伝えたいと、6年ぶりに天橋の郷ふれあいフェスタを開催。「20周年だよ！郷フェスタ～これからも地域とともに～」をスローガンに思いっきり楽しいイベントにするために半年前から準備を進めてきました。

5月25日のフェスタ当日は、小雨が降るあいにくの天気でしたが、多くの方にご来場いただきました。ステージ上では可愛い歌声やダンス等で盛り上がり、屋内外のキッチンスペースや販売スペースでも行列が途絶えず、熱気あふれる賑やかなイベントとなりました。

次の20年も更に充実したサービスが提供できるよう、職員一丸となって前進していきます。



天橋の郷開設20周年

これからも地域とともに

天橋の郷



バターケースが大変身

栗田のびのび放課後児童クラブ

今では室内遊びの主流となつています。子どもたちの自らの発想から生まれた遊びを通じて、主体性と仲間とのつながりを深めてほしいと思います。



その後、遊びの輪が広がり、3人〜5人集まってスライドさせたケースが足に当たったらアウトという、ドッジボールに似た遊びに発展していき、当たらないように動き回り、汗だくになりながら楽しく遊んでいます。



家庭で不要になったバターケースが遊び道具に変身！
名付けてスライドゲーム！
これまで、室内での運動系の遊びと言えば、数人で大縄跳びをしていました。ある日、女の子2人がバターケースを片手で床の上をスライドさせて遊び始めました。
(中にはビー玉を入れて)
そしてケースにはマジックでかわいい絵を描いたり、リボンをつけたりして素敵な遊び道具が出来ました。

ヘルパー菜園のエンドウ豆が、
天橋の家の食卓で
花を咲かせました！

天橋訪問介護事業所（ヘルパー）の事務所にあるテラスで昨年の秋から始めたプランター栽培。春になりたくさんのエンドウ豆の実をつけました。プランター栽培でこんなにたくさん実がなるなんて、思わぬ成長にヘルパー職員もびっくりです!!

せっかくなので実をつけたので、収穫して天橋の家（グループホーム）のご利用者に食べていただくことにしました。

ご利用者は慣れた手つきでエンドウ豆の皮を剥かれ、作業中はそれぞれの昔話に花が咲き、大変盛り上がりました。実が大きく、ほくほくのエンドウ豆のご飯を堪能され、『おいしいなー』『初物は縁起がいいな』と喜んでおられました。

さて、次は何が収穫できるか楽しみです。



天橋園

マルベリーホールを活用して



与謝の園内にある地域交流ホール別名「マルベリーホール」。現在の与謝の園は、旧桑飼小学校の跡地にあり、この地域では、桑の木の栽培が盛んで、旧桑飼小学校のグラウンドにも桑の木があったそうです。桑の木は、6月頃に濃い紫の実がなります。桑の実を英語でマルベリーと言い、それを引用し、マルベリーホールと名付けられました。

与謝の園ではマルベリーホールがご入居者やご利用者、そしてご家族及び地域の方々が、用事がなくてもフラッと立ち寄れる交流の場となることを目指しており、マルベリーホール活用担当の職員を配置して地域交流に力を入れていきたいと思っています。

取り組みを行うにあたり、「ホールでは、毎日何かを開催しているようにしたい」という施設長の思いに迎え、各季節の特徴を活かしたイベントや趣味につながるレクリエーション、またリハビリを兼ねた体操レク等を実施。更に各部署からも取り組みを募集し、楽しい企画を実施しています。

その一つで、施設長企画の「うたごえ喫茶」を先日開催しました。懐かしい歌を皆で歌い、そして踊り、楽しいひと時を過ごしました。参加者の盛り上がる様子を他部署の職員が同いに来る姿もありました。

今後も地域の方々、そしてご入居者、ご利用者、園で働く職員が積極的に交流していくことで、毎日生き生きと過ごせるような場を目指したいと思っています。

与謝の園が人とのつながりを実感でき、生きがいを感じながら生活を送ってもらえるような施設、そして地域の人達にとっても活気にあふれ、世代を超えた交流の場所となることを目指していきます。



手洗い研修を行いました

天橋の郷

天橋の郷では毎年2回感染症予防対策委員会を中心に施設内研修を行っています。

研修では『標準予防策(スタンダード・プリコーション)を徹底し感染を拡大させない』という目標に向かって、ガウンテクニックなどの実践を学んでいます。

今年は研修前に手洗いの基礎を把握するため、現場職員を中心に抜き打ちでチェックを行いました。

蛍光塗料剤を使用し、手洗いの手順や洗い残しなどがないかなどチェック表を見ながら確認を行っていきます。

以前の研修で学んだ洗いにくいところや指先などは念入りに洗うためか、綺麗に洗えていましたが、意外に手の甲などがしっかり洗えていない職員が多くみられました。手洗いは30秒以上かけて行うこととされているため、研修の時は時間をかけて洗いますが、抜き打ちで行うと「ほんまはしっかりせなあかんけど、普段できてないな」など反省の言葉も見られました。

手指衛生は感染症予防の基本です。これを機にまずは「一処置一手洗い」をしっかり実践し、感染予防に努めるとともに、施設内に感染を持ち込まない、万一感染症が発生しても拡大させないことを徹底し、ご入居者・ご利用者が安全・安心・安楽に過ごせるように努めてまいります。



介護老人保健施設「リハ・ヴィラなぎさ苑」の ナースのお仕事

—— なぎさ苑

当施設は、地域の皆様からの強いご要望を受け、平成13年3月に開設された地域唯一の介護老人保健施設です。医療と福祉のバランスを大切にしながら、温かいベーシックな看護・介護サービスを提供し、多職種連携でご入居者の生活・療養を支援しています。

その中で現在16名（男性看護師は6名）の看護師が活動しています。年齢も30代から60代と様々な看護師が和気あいあいと楽しく仕事をしています。

【安心を支える看護の提供】

常勤の医師がおり、看護師が24時間365日常駐していることが、なぎさ苑の大きな強みです。これにより、ご入居者の体調の変化に迅速に対応できます。

入所中に体調を崩さず安心してリハビリに取り組んでいただけるよう、看護師は、ご入居者の基礎疾患の重症化に注意を払い、情報収集やアセスメントを通して、早めの医療管理に繋がっています。必要に応じて検査の実施、専門機関への受診勧奨、そしてご家族の同意のもとでの施設内療養にも対応します。



【その人らしいを尊重するケア】

私たちは、ご入居者が安心して、その方らしい生活を再構築できるよう、特に認知症ケアに力を入れています。フランス発祥の「ユマニチュード」や、お一人おひとりの個性を尊重する「パーソンセンタードケア」といったケア技法を実践しています。認知症に伴う行動・心理症状（BPSD）に対しては、医療チームとして薬剤管理や副作用評価を多職種で行い、不必要な鎮静を避けながら、食事、入浴、排せつ、睡眠といった日常生活の継続を支援し、ご家族の負担軽減や在宅復帰、次の生活の場への移行に取り組んでいます。

【安全と尊厳を守る備え】

ご入居者の安全確保も看護師の重要な役割です。転倒による骨折などのリスクを減らすため、入所時にリスクを評価し、ご家族と情報を共有します。必要に応じて衝撃緩和マット、プロテクターの装着等の対策を行っています。また、自然災害や感染症発生に備えたBCP（事業継続計画）に基づき、不測の事態でも事業を継続しダメージを最小限に抑えるための定期的な訓練、委員会によるラウンド活動に取り組んでいます。



人生の最終段階を施設で過ごすことを選択されたご入居者に対して、「看取り」にも対応しています。ご本人・ご家族の同意のもと、尊厳を守るケアを提供し、ご家族の満足度向上を図ります。アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）を展開し、救命処置や救急受診など、急変時の対応について事前にしっかりと話し合い、意思決定が行えるよう取り組んでいます。

【積極的なITCの導入】

令和6年度よりワークシートを導入し1日の看護業務（観察、検査、処置）を「見える化」することで、業務の平準化に取り組んでいます。また、グループウェア（GoogleWorkspace）の導入を機にマニュアルの電子化、感染症に関する情報共有サイトを整備し、AIの導入も試験的に行っています。

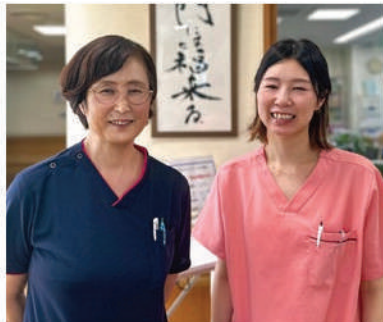
【専門性の向上と地域との繋がり】



質の高いケアを提供するため、看護職は施設内外の研修に参加し、専門知識・技術の向上に努めています。また、須津地区認知症カフェでの健康講座や健康相談、府立看護学校の老年看護学実習の受け入れ、災害派遣といった社会活動も積極的に行い、微力ながら地域に貢献していきます。

これからご入居者が安心して療養・生活できるよう力を尽くしてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

昨年末から、なぎさ苑では歯ブラシ・義歯ブラシの管理方法を見直し、試験管立てを代用することで、ブラシ同士が触れ合わず、より衛生的に保管できるよう工夫しています。また、歯磨きの際には、ご入居者それぞれに磨き残しやすい部分を確認し、うがいの際にしっかりとブクブクできているかを観察しながら、適切なケアを行っています。



歯科衛生士と歩む、
健康な暮らし



多職種と情報を共有することで、ご入居者が快適に過ごせるよう努めています。こうした細やかな口腔ケアを提供するため、昨年度より歯科衛生士を2名体制とし、より充実した支援を行っています。今後も、各職種と連携を深めながら、一人ひとりの健康維持と生活の質の向上をサポートしていきます。



ケアカルテBuddyの導入

与謝の園

ケアカルテBuddyの導入により、時間を有効活用でき、全体としての業務効率が向上すること、今後更にサービスの質の向上にも繋げていけるようにしたいと思います。



入され、課題の改善に向けた取り組みが始まりました。スマートフォンとケアカルテBuddyの導入前はタブレットを使用して、訪問記録の入力を行っていましたが、事務所に戻って送信する作業が必要で、完了するまでは他の職員が記録を確認する事もできませんでした。また、登録ヘルパーが個々に毎日訪問予定確認のメールを送り、必要時の連絡をその都度電話連絡するなど細かい作業もありました。

導入後は訪問先からの記録入力とケース記録や訪問予定の確認がいつでもどこでも行え、チャット機能でサービス提供責任者とリアルタイムで連絡が取れるようになります。報告や相談、急な訪問先変更の確認もできるようになりました。



4月から与謝の園訪問入浴・訪問介護事業所が相互連携できる運営体制となりました。今まで、訪問業務の中で記録の即時共有が行えず課題となっていました。今年度『ケアカルテBuddy』が導

天橋園のある城東地区の『壮青会』様が、天橋園の職員駐車場付近の草刈りを定期的にしてくださり、それに合わせて職員も一緒に地域の清掃活動をお手伝いしています。

道路沿いの歩道や駐車場の土手に生い茂っている雑草を壮青会の方が草刈り機で刈っていき、後を追って職員が袋詰めにしていきます。簡単な作業ですがなかなかの力仕事です。



城東地区の国道沿いに生えた草を少しずつ刈っていき、雑草だらけだった道路が見違えるようにきれいになると、心まですっきりと晴々とした気持ちになります。施設の周りの街並みがきれいになると、職員の日々の仕事にも活力が湧いてくると同時に、改めて地域の方に支えられていることに気づかされます。

きれいになった道路沿いに紫陽花が咲くのが楽しみです。

地域の皆さまに
支えられ——
天橋園

編集後記

広報誌きらめき43号の発行となりました。いつもご覧いただきありがとうございます。毎年のことながら今年も暑い夏がやってきました。「暑いのは当たり前」ではなく、「暑さ対策は重要な仕事」として捉える必要があります。「水分取っていますか」といった声かけをあいさつ代わりにするのでもいいかもしれませんね。今後も地域の皆様に信頼していただける法人として、新しいこと、楽しいこと、皆様の役に立てる情報などを発信し続けていきたいと思っています。



↑
ホームページは
コチラ